

トルコのイスラム寺院のタイル

2021年9月8日

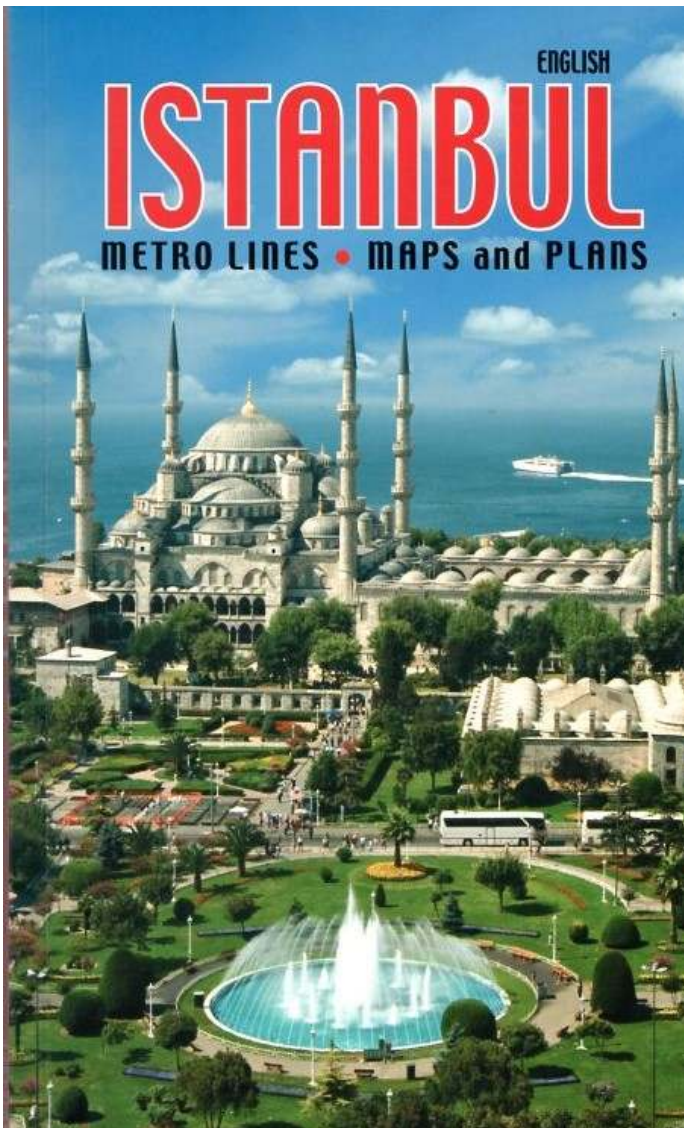
37回生 竹本 修文

はじめに

本年8月9日の富田八千代さまの投稿、「土佐校百年展からのオクリモノ 高知で遭遇した浮世絵展」を拝読しました。妻の影響で染色・窯業・絵画の世界を少し覗いた筆者は、「はじめに 北斎の青色」の中の、『= 鉢物も輝く青は希少で古くはイスラム寺院のタイルが独占。これが外に出てフェルメールの「青いターバンの少女」が描かれ、北斎の「神奈川沖浪裏」の傑作も成立 =。この3者が一直線でむすびつくとは、と疑問がわいた。』と、いう記述に興味をわき、トルコのイスラム寺院のタイルと、オランダのフェルメールの「青いターバンの少女」の2点にコメントする気になりました。今回は、トルコのイスラム寺院のタイルの投稿です。

1.1 イスタンブルのブルーモスク：正式名は**スルタンアフメットモスク**であり、建設したオスマン朝第14代の**王スルタン・アフメット**の名前である。ローマ皇帝**コンスタンチヌス**が4世紀に首都をローマからヨーロッパ大陸側の**ビザンチウム**と呼ばれていたこの地に移して名前を**コンスタンチノープル**と変え、キリスト教徒のビザンツ帝国を建国した。

中央アジア出身のトルコ民族は、ペルシアに移住した時にイスラム教を信仰し、コーランのアラビア文字を採用し、11世紀に現トルコのアジア側に定住し、セルジューク朝を興し、その中からオスマン朝が成立して、15世紀にヨーロッパ大陸側のコンスタンチノープルを征服して**イスタンブール**と改名した。ビザンツ帝国のキリスト教の総本山**ハギアソフィア**に四本の塔ミナレットを建ててイスラム教のモスクに変えトルコ語で**アヤソフィア**と改名し、ビザンツ皇帝の王宮があった場所に建設されたのがブルーモスクです。イスタンブールのモスクはどれもアヤソフィアのような丸いドーム型である。この原型は最古のキリスト教国アルメニアです。



下の写真は、ビザンツ皇帝**ユスチニアヌス**が再建したキリスト教大聖堂**アヤソフィア**である。第1次世界大戦に敗戦し、トルコ革命を経て、トルコ共和国は歴史的建造物として博物館にしたが、2020年（昨年）エルドアン大統領はイスラム教のモスクに戻した。



左の写真は2011年訪問時の現地ガイドブックの表紙である。キリスト教の総本山だった**アヤソフィア**の隣りにある事と、キリスト教徒の**西洋人観光客**が21043枚の**青緑**を基調としたタイルの美しさから、英語でブルー・モスクと呼び始めた事から、西洋人には最も人気の寺院となった。下の英文には、以上説明した事が書かれている。即ち、**トルコ人にとって、このモスクは青とは無関係であり、イスラム教と青は関係はないと思う。**

1.2 イスタンブルの観光地図 (出典：切り取りMAP WAGAGAMAARUKI)

ガラタ橋の上は新市街、下が世界遺産の歴史地区で、引用するイスラム寺院(トルコ語ではジャミイ、アラビア語でモスク)は、右下のブルーモスクとガラタ橋南詰近くのリュシュテムパシャ・ジャミイです。他に重要な見どころは、古代ローマ時代のキリスト教総本山のアヤソフィアとオスマン朝全盛時代のスルタンのトプカプ宮殿をお探ください。



1.3 イズニック・タイル Iznik Tile

現トルコのアジア側では、8～9世紀のウイグル人の時代にタイルの製造が始まり、11～12世紀のセルジューク朝時代から古代ローマ時代の古都ニケーアがイズニックと改名され独自のタイルの製造で栄えた。シルクロードから中国の青花磁器が入ってくると、スルタンも中国の青の磁器を好んだが、15世紀にオスマン朝がヨーロッパ側の現イスタンブルを征服してから、トルコのイスラム寺院や宮殿に独自の赤のイズニック・タイル Iznik Tile を多用するようになった。モチーフには赤のチューリップ、バラ、ザクロ、ヒヤシンスなどが好まれた。色彩は、赤いチューリップ、トルコ石色（青緑色）やコバルト・ブルーなどが有名である。チューリップの赤はイズニック・レッド IznikRed と呼ばれ貴重だったが、内戦やオスマン朝の衰退による戦いで職人が殺されてしまった為に再現が出来なくなった。

1.4 ブルーモスクのタイル 出典：1.1 項の ISTANBUL ガイドブック Duru Basim Yayin Reklamcılık



Delicate domes covering the Sultanahmet Mosque.



赤いチューリップを愛でるメフメトII世征服王スルタン



イスラムの神アッラーの象徴とされる赤いチューリップ



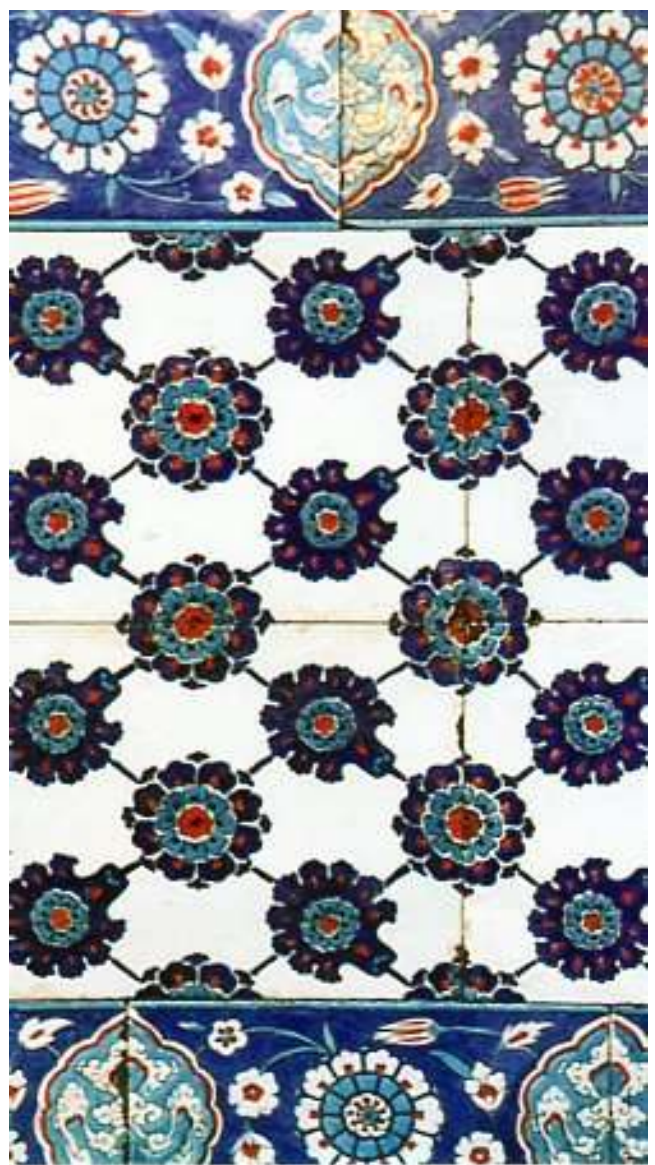
下の写真は、左は**アヤソフィア**（1.2 項参照）、右が**ブルーモスク**（ミナレット6本）



1.5 リュシュテムパシャ・ジャミイ（湾の船上からリュシュテムパシャ・ジャミイを見た景色、右上のドームはスレイマニエ・ジャミイ）



リュシュテムパシャ・ジャミイは最も美しいイズニックタイルが沢山揃っているが大型バスが入れず観光客が少ない
写真出典： The Tile of Rustem Pasha Mosque , Newsweek ISBN:978-975-9167-59-2

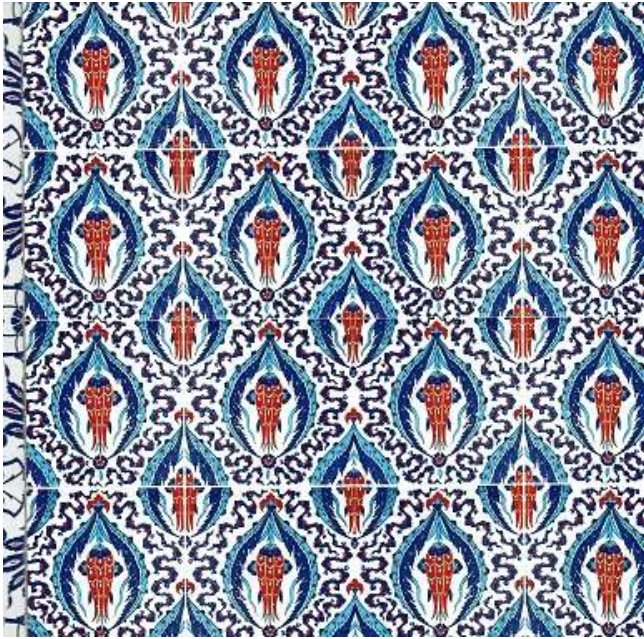


下の写真は、スレイマニエ・ジャミイからガラタ橋方面を見下ろしたリュシュテムパシャ・ジャミイの屋根と内部のタイルの様子

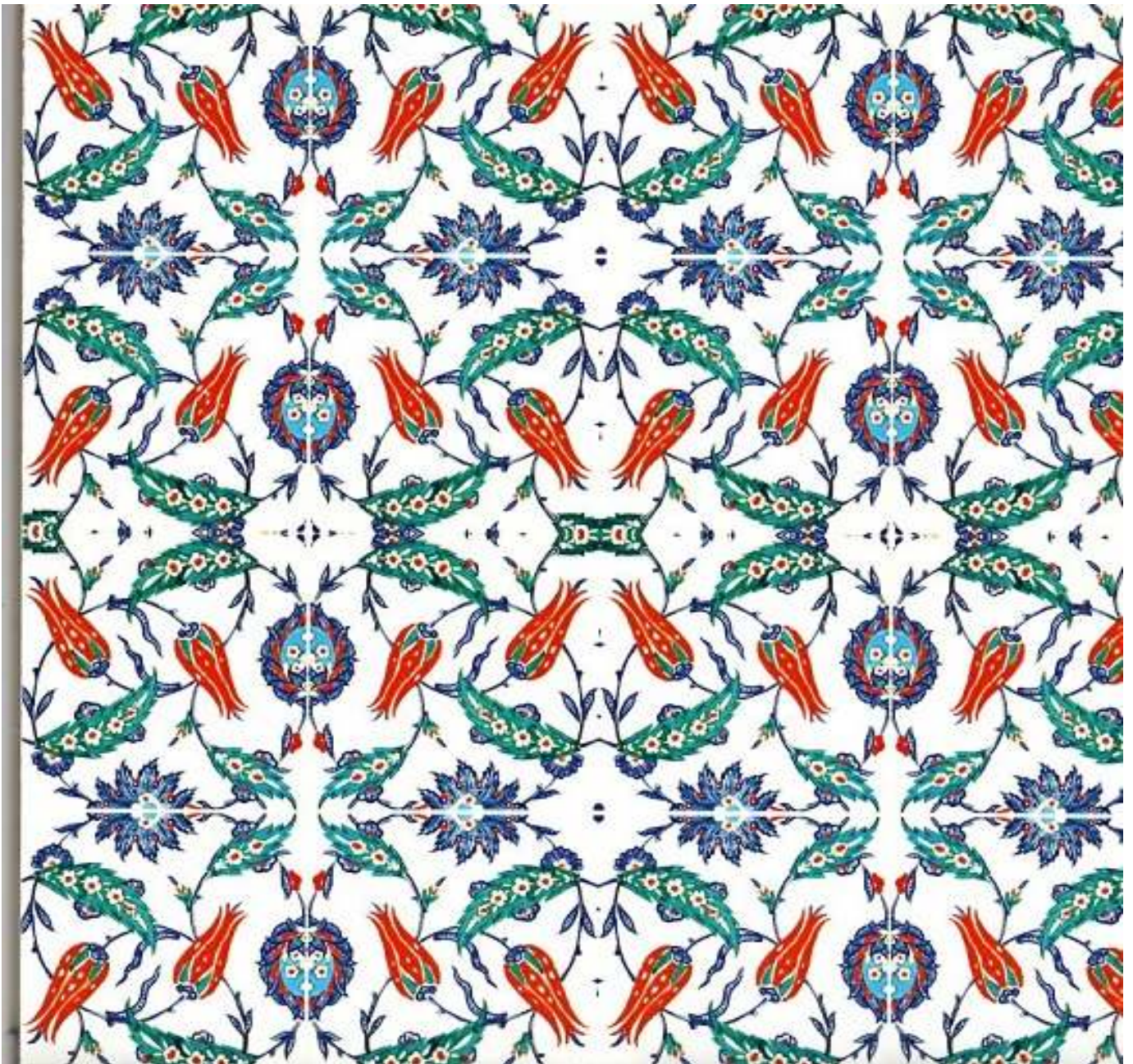


写真は、生命の樹のタイル 2 枚。聖書の創世記のエデンの園の中央に植えられた木で、アダムとエバの話が有名だが、イスラム教でもコーランに命の木が書かれている。しかし筆者はイスラム世界でこれらのタイルを使って何を教えているか知識がありません。





10 日間滞在中、二日間案内戴いた、ムゲ・ダネさん、当時は早大博士課程、現在は東京外国語大学准教の五十嵐ムゲさん 酒が強い！イスラムではなさそう



赤以外は Iznik 南方の街で再現可能、赤は染料でも焼き物でも難しいそうです。

以上